

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連 (北関東)	良くなる	コンビニ（経営者）	・長い梅雨が明けてからは、売上が前年比114%、乗客数は同109%と好調である。残暑がどれくらい続いてくれるかということもあるが、秋の品ぞろえも視野に入れつつ取り組みたい。	
		一般レストラン（経営者）	・来客数からみても、単価をそれほど気にせずに注文している客が多くなっているため、この先も景気回復を感じる。	
	やや良くなる	商店街（代表者）	・県外客の出費に比べ、遅れていた地元客の財布のひもが緩むのを期待している。	
		百貨店（店長）	・日用品や衣類、雑貨を中心に売上が前年を上回るアイテムが多く出てきているからである。	
		スーパー（総務担当）	・衣料品や住関連品の売上が悪いのは、消費税増税の反動の影響も若干あり、また、7月中旬まで気温が上がってこなかったことによる売上悪化のためでもあるので、今後は改善してくると予想している。	
		コンビニ（経営者）	・幾らか客数が伸びてきているので、多少は良くなるのではないかと。	
		衣料品専門店（統括）	・夏本番に入り、花火大会、夏祭り、七夕など各地でいろいろな催しが行われ、にぎやかになっている。秋に向けても多少は祭りがあるので、良い状態のまま持続するのではないかと。	
		家電量販店（営業担当）	・消費税増税の影響も徐々に小さくなっていくと見込んでいる。	
		乗用車販売店（経営者）	・そろそろ景気も回復に向かっているとみている。	
		乗用車販売店（販売担当）	・今が最低なのでこれ以上悪くなるとは思わない。徐々に販売量は伸びてきているので、希望的観測論では良くなってほしい。今は来店してもなかなか購入を決めてくれない、サービス入庫での修理についても、出費を渋り、本当に直さなければならぬところしか修理しない。	
		乗用車販売店（統括）	・消費税増税の影響が現在よりも少なくなると考えられるためである。	
		観光型旅館（経営者）	・時間の経過と共に消費税増税の影響が減ってきている。また、ガソリン価格の高騰や、高速道路料金の割引縮小により、首都圏から近い当県への観光客は増えてくると予想している。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・これから多少でも景気が良くなってくれば有難い。今のところはそう高望みはできないので、希望的観測である。	
		都市型ホテル（営業担当）	・3か月後ぐらいになると今の状況よりはやや良くなってくるかと思う。夏の時期にはレジャーによる集客、秋口に向けてはスポーツシーズンの団体宿泊等に期待できると考えている。	
		旅行代理店（営業担当）	・夏から秋にかけて旅行需要は増加傾向にある。	
		通信会社（営業担当）	・家族旅行の機会が増える時期であることや、景気の影響を受けている職種の収入増で、前年と比べ出費増の傾向が見込まれる。	
		遊園地（職員）	・新規施設による集客や外国人観光客の継続的な増加により、今後も引き続き多くの来園客が期待できる。	
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	・来客数等が増えており、今後しばらくは少しずつではあるが良い状態に向かうのではないかと考えている。	
		美容室（経営者）	・高校卒業の生徒へのガイダンスでは、専門学校へ入学するより就職しようと考えている生徒が多く、少し景気が良くなったかなと感じている。	
		変わらない	商店街（代表者）	・零細企業が大手企業の恵みを受用できるのはいつのことか。ことに地方の景気上昇はまだ先のようにみえる。
			一般小売店 [精肉] (経営者)	・台風のシーズンになり、湿った空気によって気温が上がって暑さが続くため、当分の間、人の動きは悪い。そのため相場も変わらない。
			一般小売店 [家電] (経営者)	・消費者は衝動買いや必要のない出費を控えている。商品の購入に至っても商品価値を考慮して購入する消費者が多くなってきており、購入量の少ない中での大型店との価格競争はより厳しくなりそうである。
一般小売店 [家電] (経営者)	・まだ猛暑に期待できる。また、太陽光発電等についての客の関心もまだ非常に強いような気がする。			
百貨店（営業担当）	・消費税増税、電気などの公共料金、ガソリン価格の高騰により実質的な手取りは減っているため、景気はそう簡単には上向いていかない。			

百貨店（販売促進担当）	・消費税増税後、緩やかな景気回復を予想していたが、いまだ回復を実感できる状況に至っていない。地方都市では賞与増等の明るい話題もなく、今後の見通しが期待できる与件も見当たらない。
百貨店（販売促進担当）	・来客数は前年と大きく変わらないなかで、売上が落ち込んでいる。消費税増税後は価格に対する感覚がますますシビアになってきている。
百貨店（店長）	・消費税増税の影響は徐々になくなりつつあるが、客の消費行動は慎重で、消費に勢いはない。
百貨店（店長）	・客の動向を見ると、飲食店、書店はにぎわいがあるが、セール期間中のファッション関係の店への入店者が少ない。食品、飲食関係の売上は良くなると思うが、物販関係は現状のままが続く。
スーパー（店長）	・今のところは悪い与件が見当たらず、身近な範囲では大きな変化はないと判断している。
スーパー（統括）	・今回の消費税増税の影響はほぼ解消されたが、今後の景気を左右する原油高、外交問題、不安定な海外情勢に加え、2015年10月の再増税論議の活発化が景気全体を押し下げるのではないかと懸念している。
スーパー（商品部担当）	・リニューアル店舗の売上増は見込めるものの、既存店における来客数増加が見込めない状況や、食品メーカー始め商品の値上がり傾向が強くと販売増が見込めないため、変わらない。
コンビニ（経営者）	・客数が戻らない限り良くならない。
コンビニ（店長）	・つい先日のように大きく気温が上がるとかであれば、水物や冷たい物が引っ張る形で良くなると思うが、そうでもなければ特別景気が変わってくるような感じはない。
家電量販店（営業担当）	・4月以降景気は回復していない。
乗用車販売店（経営者）	・内閣の支持率が落ちて来ている。国債の大量発行や強引な政治手法で今後更に低迷に向かってしまう恐れもあり、景気の判断は難しい。
乗用車販売店（経営者）	・更なる消費税増税に関連して、エコカー減税の廃止などといった自動車関連の税制の動きによっては新たな駆け込み需要もあるのではないかと考えている。
乗用車販売店（営業担当）	・ガソリン価格への不安からここにきて燃費や性能はもちろんのこと、ディーゼル車の相談も目立つようになってきている。台替えに期待したい。
乗用車販売店（販売担当）	・2～3か月先というところ、田舎では8月はお盆月で元々そんなに販売台数が伸びる月ではない。消費税がまた上がるといふ話もあるが、まだ今のところは現在の売れない状態のまま推移していく。
住関連専門店（経営者）	・経済的にも政策的にも、明るい話題程度のものでいいので新しい対応策が必要になってきていると感じる。消費税の更なる引き上げに対して、消費者の警戒感が強まってきている。
住関連専門店（店長）	・日用品を取り扱っているが、1人当たりの買上点数が増えている。今後も良くなる材料が見当たらないため、変わらない。
住関連専門店（仕入担当）	・ガソリン価格に代表される物価上昇に対する防衛意識は今後も継続され、特に、生活品に対する節約傾向は当面続くと思われる。
一般レストラン（経営者）	・景気回復は東京一極集中で、地方の方まではなかなか来ない。景気回復をいまだ実感できない。
一般レストラン（経営者）	・好景気を感じているのはほんの一部で、末端まで少しでも好景気を感じられる時が本当に来るのだろうかという状態である。弱い立場は弱いままにならないような対策が必要である。
一般レストラン（経営者）	・やや良い状態が継続すると考えられる。
スナック（経営者）	・良くなっていきそうな気配がないが、悪くなっていく感じもないので、もうしばらくはあまり良くない状態が続く。
スナック（経営者）	・変わらないと回答したが、これ以上悪くならないようにという意味である。地方でも良くなるようなアイデアはないのだろうか。なかなか努力だけでは景気は良くならない。
都市型ホテル（副支配人）	・ガソリン価格高騰の影響で遠出を避ける傾向にあるため、ファミリー客の問い合わせを含めた予約は例年と比べ低調である。
旅行代理店（所長）	・秋口の団体の動きが鈍い。
旅行代理店（従業員）	・円安が進みすぎているからである。

旅行代理店（副支店長）	・現状は夏休み等で個人客の動きがあるが、バスの運賃改正により、秋以降の旅行代金が値上がりするため、バスを利用する団体等については客離れが懸念される。
タクシー運転手	・消費税増税の影響もあまりないようだが、販売量もそれほど変わっていない。
タクシー（役員）	・原材料の高騰からの判断である。
通信会社（経営者）	・LPガス販売部門については、輸入価格、販売価格共に高止まりで、100%転嫁できずにいるため、利益はひっ迫する一方である。政策で円安に誘導して一番あおりを受ける電気やガスといったエネルギー事業は2016年の規制緩和で更に競争を強いられるようになる。化石燃料の中東依存度を下げ、人口減少に歯止めを掛けるような対応を取ってもらいたい。
通信会社（経営者）	・ガソリンなどの値上がりにより、消費意欲が減り、節約志向が強まっている。
通信会社（局長）	・これから猛暑、残暑で販売しにくい季節に向かっている。また、消費税増税後の消費抑制マインドがじわじわと現れ始めている。
テーマパーク（職員）	・屋外施設であることから、天候に左右され易いため、ここ数年、ゲリラ豪雨など夕立への心配が絶えない。
観光名所（職員）	・当地への鉄道アクセスの一つである路線が大雨の災害で不通となっている。しばらく復旧せず、影響が懸念される。世界遺産認定地への客の流れも若干の影響があるかもしれない。
ゴルフ場（支配人）	・旧盆予約は相変わらず遅い。予約状況は例年並みだが、7月後半の梅雨明けで売店、レストランの飲料売上が急に伸びている。また、周辺で民事再生コースが発生する模様である。
ゴルフ場（業務担当）	・今月は、入場者は前年比少々プラスであったが単価が伸び悩み、売上が伴わない状況である。向こう3か月についても、引き合いはほどほどにあるが、売上が伴わないので収支の改善はなかなか見込めない状況である。販売もこのところ鈍っており引き合いが少なく、今のところ収益の改善、プラス要因はあまり期待できない。
競輪場（職員）	・G1レースの売上が期待したほど伸びなかったからである。
美容室（経営者）	・やや悪い状況のまま落ち着いてしまう感じがしている。
その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・欲しい物を買って求めるという客の状況は変わらない。単価等も横ばいなので、将来を考えても変わらない。
その他サービス〔イベント企画〕（職員）	・依然として世界情勢は混乱を極めており、先行きは不透明である。
設計事務所（経営者）	・先の依頼も数件あり、状況はほとんど変わらないと思われる。
設計事務所（所長）	・今後の景気はあまり期待できないが、夏のイベントを多く取り入れ集客を狙い、受注につながるよう努力したい。
住宅販売会社（従業員）	・土石流による災害で電車が不通となっていることから、中京、関西圏からの入込に支障がでることと、ガソリン価格の高止まりの影響などが懸念される。
やや悪くなる	<p>商店街（代表者）</p> <p>・暑い日などは人の流れが郊外の大規模ショッピングセンターに向いているようで、夕方の一時だけ商店街に常連客が来てくれるというところである。土日は早めに閉店する店も増えてきている。</p> <p>商店街（代表者）</p> <p>・世間では景気が悪いということが浸透しているようで、余計な物を買うような雰囲気はない。休みに入ると子どもたちをあちこち連れて行くのにお金がかかるので、我々のような小売店の商売は良くない。</p> <p>一般小売店〔乳業〕（経営者）</p> <p>・相変わらず地方の景気が上向くような対策が打たれていない。</p> <p>一般小売店〔青果〕（店長）</p> <p>・商業だけでなく、地元の工業関係についても、大手企業の本社の経常利益等は最高利益ということだが、下請関係では良い話を聞いたことがない。</p> <p>コンビニ（経営者）</p> <p>・8月までは現在の調子でいくと思うが、9月以降になるとやはりある程度販売量が落ちることが予想される。</p> <p>コンビニ（経営者）</p> <p>・2～3か月先は客数も減り、気温が高い時に売れる商品が売れなくなっていくのでやや悪くなる。</p> <p>コンビニ（店長）</p> <p>・当店は古い街中の中心部立地のため、7月中は夏祭り等のイベントが比較的天候に恵まれ、予想以上の来店客があった。しかしながら3か月後は通常に戻るため状況は悪くなる。</p>

		衣料品専門店（販売担当）	・通常の年であれば、残暑があっても8月下旬から9月くらいには薄手の秋物から消費が伸びていくところだが、残念ながら現状から考えると4月以降今まで我慢していた人はもっと我慢してしまいそうである。9月に入って極端に寒くなればまた別だが、経済環境は悪化している。
		家電量販店（店長）	・消費税増税の駆け込みの影響からまだ脱していないようである。今後は暑さの継続が鍵となる。他に良い材料が見当たらない状況である。
		乗用車販売店（従業員）	・受注残が減少しているため、収益見通しがマイナスで推移している。
		自動車備品販売店（経営者）	・都市部では景気が良さそうだという話だが、地方では良い話がほとんどない。車の購入やその他価格に対して消費税が決定的にネガティブな印象を与えており、客の財布の締め付けが一層厳しくなっているため、先が読めない。
		高級レストラン（店長）	・消費税増税の影響は当然あるが、それ以上に電気、ガソリン、仕入材料の大幅な価格上昇により採算が悪化している。
		スナック（経営者）	・毎年のことだがお盆やお盆明けは売上が落ちる。
		タクシー（経営者）	・全体的に動きが悪いのでこの先も悪いと思う。
		設計事務所（所長）	・当社だけのこともかもしれないが、前月より少し下降気味である。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税増税特需の分が一気に反動で来たという印象が強い。増税で景気に急ブレーキが掛かったような気がしている。
	悪くなる	一般小売店〔衣料〕（経営者）	・小中学校は7月下旬から8月後半まで休みで、商店街の売出しが7月初旬からお盆明けまで行われているが反応はない。観光客は来ているようだが、買物をするような様子は見られない。これらの状況からあまり良くはならないと思う。
		タクシー運転手	・地方ではタクシー業は良くならない。
		通信会社（経営者）	・地方の景気は悪化の一途をたどっている。特に、消費税増税による影響がじわじわと締め付けている。
企業動向関連 (北関東)	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）	・主要取引先である国内自動車完成メーカーの輸出量が増加しているため、先行きも良くなる。
		その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・本業の環境装置の商談も年間目標の予定通りに順調な受注があり、太陽光発電の事業についても大手電力会社との連携で来年の夏までめどが立ってきている。
	やや良くなる	食料品製造業（営業統括）	・国産ワインに関するニーズは関係業者ばかりでなく和食関係者にも認知されてきており、国産ワインコンクールの開催も更に後押しし、順調に伸びつつある。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・年末商材の動きがあると同時に、夏イベント出店の依頼も例年より増えている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注見通しによると3月並みとまではいかないが、3月以降半分に落ちてしまった受注量が、2～3か月後には8、9割まで回復してきそうである。徐々に良くなっていく感じがしている。
		建設業（開発担当）	・公共工事はアベノミクス効果で受注額が前年比大幅増と、有難い状況が続いている。ただし、東日本大震災復興と東京オリンピック効果で東京都市部の建設ラッシュが一気にきて人件費が高騰し、受注してもいかに利益を計上するかという不安材料がある。建設業は10年以上縮小してきたため、作業員が高齢化し、材料供給施設も減少しているという問題がある。
		金融業（調査担当）	・駆け込み需要後の反動減の影響が薄らぐほか、建設業では公共工事量の増加、製造業では底堅い海外需要も景気の下支えになるとみられる。
		金融業（経営企画担当）	・小売業で、今後は前年並みかそれ以上の売上が見込めるとの声が多い。
		司法書士	・進出してくる企業等の相談は増えているので、少しは上向くのではないかと考えている。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・引き合いの状況から推測すると、今後は受注量、販売量共に増加すると見込まれる。
	変わらない	化学工業（経営者）	・受注量等はあまり変わらないと予想している。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・現状維持に努めている。
		金属製品製造業（経営者）	・6月は仕事量が少なかったが、7月は多くなっている。得意先の都合によるので、先の見通しを立てるのは難しい。
		一般機械器具製造業（経営者）	・ここ2～3か月については全く変化がないが、新規取引先より具体的な製品について提示があり、話し合いを開始した。受注につながるかどうかは4、5か月先の予定ではあるが、営業努力の表れとして期待している。

	一般機械器具製造業 (経営者)	・期待していた中国向け建設機械関連の仕事は、いまだに在庫調整が終わらず、数が戻る見込みもないため、先行きは現状と大きくは変わらない。
	電気機械器具製造業 (経営者)	・来月以降、新機種生産等、新しい動きの計画がないので、下期に期待したい。
	電気機械器具製造業 (経営者)	・新製品が増産されることを願うが、まだ不透明である。
	電気機械器具製造業 (営業担当)	・生産量は現状維持で推移していく。
	精密機械器具製造業 (総務担当)	・落札による大手得意先からの受注があり、明るい兆しは見えつつあるが、受注量、販売量共にまだ低調に推移するものと判断しており、景気が良くなるとは考えていない。
	輸送用機械器具製造業 (経営者)	・現在はやや良い状況だが、いつ悪くなるか、このまま継続して良い状況が続くのか、2～3か月先のことは全く分からない。
	その他製造業 [宝石・貴金属] (経営者)	・来月はお盆休みもあり売上は伸びない。月の終わりに大きな卸の展示会があり、その売行きが秋からの商戦を占うことになる。卸では秋口からの商戦用に受注は確保できている。
	建設業 (総務担当)	・公共の発注見通しを見ると今後仕事量は出てきそうな感じではあるが、資材等も更に高騰しそうなので、何ともいえない。
	輸送業 (営業担当)	・今後は行楽シーズンに入り、特にバーベキュー用品や炭、園芸等のエクステリアの物量が増える見込みである。また、ネット関係の物量も増えそうである。しかしながら燃料高や高速代の見直し、車検、保険の負担高により利益の確保は厳しくなりそうである。
	金融業 (役員)	・一部の業種については売上が増えているが、逆に材料費や人件費が上がっているため利幅は非常に縮小している。
	新聞販売店 [広告] (総務担当)	・幾つかの店の話では、消費税増税に対する顧客の心理的負担はかなり軽減されてきているようだが、景気が良くなるとの確証はつかめていないということである。
	経営コンサルタント	・消費税増税の影響が徐々に表れてきて、設備投資や個人消費が足踏み状態になることが懸念される。
	社会保険労務士	・中小企業の賞与について、今まで出していたところは出したが、出していなかった事業所まで出すというところまではいっていないので、そんなに変化はない。
やや悪くなる	通信業 (経営者)	・ガソリン価格の高騰が物価に響いてきそうな気がしている。
	不動産業 (経営者)	・将来の基幹となる業種での景気が委縮しており、拡大しているのはせつ的な業種である。先細り感がぬぐえない。
	不動産業 (管理担当)	・今のところ、受注が増えたり、テナントの新規入居予定の話が全くないので、今後も良くない状態が続く。
	広告代理店 (営業担当)	・広告宣伝は減る一方である。
悪くなる	食料品製造業 (製造担当)	・光熱費もすべて上がり、利益を出そうにも出る状況にない。特に原料が上がりすぎて、今の価格帯が続けば、当業界は危機的状況に陥る。販売価格の値上げが生き延びていく鍵となる。
	出版・印刷・同関連産業 (経営者)	・毎月の資金繰りが本当に大変である。
雇用関連 (北関東)	良くなる	○
	やや良くなる	○
	人材派遣会社 (経営者)	・長期に渡る公共事業の受注が得られたようなので、年末に向けて活発化してくると思われる。食品については結構暑さも厳しいので、値段が高騰する物が出てくるとみられ、まだ安定とは言い切れないところである。製造業は比較的募集も安定した様子なので良くなる。
	人材派遣会社 (管理担当)	・暑くなり種類の需要が増え生産計画が上がり、食品製造関連の派遣が増えると予測している。
	職業安定所 (職員)	・すべての産業ではないが、事業主から人手不足であるという話をよく聞くようになった。
変わらない	人材派遣会社 (支社長)	・直接雇用というキーワードで進む方向がはっきりしてきているが、なかなかマッチングは進んでいない。紹介料を支払うことについて、当たり前という感じが定着しても、結果が出ないため、ますます人手不足感は出ると見込まれる。
	求人情報誌製作会社 (経営者)	・まだ月によって景気の格差があり、もう少し先の動向を見ていかなければ回復したのかは分からない。
	職業安定所 (職員)	・管内の求人数については、大手企業の影響を排除すると、ここ1年ほどほとんど変化がない。一部を除き製造業の仕事量は増えているが、直接雇用には慎重である。
	職業安定所 (職員)	・求人数が少しずつ増加しているものの、伸びが緩やかになってきており、しばらく足踏み状態になると見込まれる。

	民間職業紹介機関（経営者）	・不況業種から好調な業種への労働者移動については、若年者は職業訓練等によりシフト可能であるが、中高年は希望賃金や経験相違等が大きな障壁となり、実態として困難な状況が続いている。
やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・今は大変忙しいが、3か月先に大きな仕事が終わる、その後の仕事がまだ決まっていないため、少し心配である。
	人材派遣会社（営業担当）	・中小零細企業の夏の賞与がこれから支給されるだろうが、減額あるいは出ない会社があるため、消費も見込めない。
	職業安定所（職員）	・4月からの消費税増税に加え、燃料価格の高騰によるコスト上昇などで業績や生産性への懸念が予想される場所である。
悪くなる	—	—